

令和6年度神奈川県立小田原支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和6年度神奈川県立小田原支援学校第1回学校運営協議会	
開催日時	令和6年5月22日(水) 10:00~12:00	
開催場所	神奈川県立小田原支援学校 応接室	
出席者	委員6名 事務局7名	
次回開催予定日	令和6年8月26日(月) 午後	
問合せ先	小田原支援学校湯河原校舎 副校長 杉山 電話 0465-60-1800(直通) FAX 0465-60-1805 本校(小田原校舎) 電話 0465-37-2758(直通) FAX 0465-37-5356	
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由
審議(会議)経過	<p>会場参加及びZOOMによるオンライン参加のハイブリット開催 出席委員 会場参加:6名、オンライン参加:0名</p> <p>1 会長挨拶 ・参加5年目になります。何より小田原支援学校の応援団として、日々の教育活動、学びの様子を理解し、皆様からご意見をいただきます。</p> <p>2 校長挨拶 ・今年度、児童生徒数271名、教員定数147名、大井高校は城北工業高校に令和8年度までに移行し、大井分教室は継続する。入学生を昨年度までの15名定員から、今年度30名定員にしているが、結果15名であった。次年度入学生も2クラス30名定員の予定。使用できる場所は広がったが、管理上の課題がある。 ・1人1台端末ではしっかりとした整備を行う。また、個別教育計画の見直しを行った。大きなくくりで将来を見据え、授業改善を行う。いただいたご意見を学校経営に反映させていく。</p> <p>3 委嘱(任命)式 ・学校運営協議会委員(出席者)に任命書、委嘱状を交付 ・学校運営協議会委員及び学校参加者挨拶 (杉山副校長)再び戻れた職場でやりがいを感じている。また、子どもたちの成長を感じている。教員の働き方改革を働き甲斐改革に変え、子どもたちへの学びに生かす。 (利根川事務長)昨年6月から赴任、事務室にお声かけを。 (三輪支援連携部長)温かな県西で連携し、子どもたちの支援に</p>	

	<p>あたる。</p> <p>(府川管理部長) 防災を担当する。何かあればすぐ駆けつける。</p> <p>(島田総務部長) 会計、スクールバスを担当する。安心安全を守っていく。</p> <p>(古賀指導部長) 先生方、子どもたちの話に耳を傾け、学校づくりに繋げる。</p> <p>(西岡教務部長) 子どもたちを縁の下から支える。</p> <p>(川端副会長) 杉山副校長が戻ってきて喜んでいる。</p> <p>(榊原様) 4月から新体制で運営している。医療的ケア、2市8町の相談業務等もある。</p> <p>(山崎様) ほうあんなぎさ・うみを兼務している。定員はいっぱいである。卒後の地域の学校保障、子どもの活動保障をしていく。</p> <p>(安藤様) P T A活動の保護者・教員の負担を少なくしていく。</p> <p>4 令和6年度学校運営協議会運営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成メンバー ・組織体制 ・実施日程 (全4回) ※8月26日は午後開催 <p>●学校評価部会</p> <p>○グラウンドデザイン「一人ひとりが輝く学びの場」<HP資料参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな学校のミッション (令和6～9年度) ・三つの学びの場が一体となった学校運営の実施 ・目標達成に向けた主な方策 ・コミュニティ・スクールの運営、地域連携、切れ目ない支援の充実、地域防災・校内防災の充実 <p>○学校教育計画 (令和6年度～令和9年度) <HP資料参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの積み重ねをベースに、新たな四年間の計画を作成している。 <p>○4年間の目標と主な方策 <HP資料参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程・学習指導 ・児童・生徒指導・支援 ・進路指導・支援 ・地域等との協働 ・学校管理 学校運営 <p>○令和6年度 学校評価報告書 (目標設定) <HP資料参照></p> <p><教育課程 学習指導></p>
--	---

	<p>①昨年度までの改善方策等も踏まえ、教育課程編成の手引きや学習指導要領検索システムを活用し、個別最適な学びと集団的な学びの一体的な充実を図る。</p> <p>②今年度より運用が実質的に開始される1人1台専用端末を活用した授業づくり、学習環境等を整え、ICT機器を活用した学習方法等を確立する。</p> <p><児童・生徒指導・支援></p> <p>①新書式となった個別教育計画を活用し、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を専門職や相談担当教員、関係諸機関等と連携する。</p> <p>②担任・学年等が支援連携部と連携し組織的な体制等を構築し、課題の解決に向けた支援方法や支援計画を立て、計画的に取り組む。</p> <p><進路指導・支援></p> <p>①小学部・中学部・高等部を通した一貫したキャリア教育全体計画の作成と見直しを行い、児童・生徒のキャリア発達についての学びを深め、進路指導・支援に生かす。</p> <p>②保護者への進路情報や福祉制度に関する各種情報を周知し、そのニーズに応えるとともに理解啓発を図る。</p> <p><地域等との協働></p> <p>①特別支援学校におけるセンター的機能を発揮し、交流及び共同学習等の実施や人的交流2年目の研究をとおして、学校コンサルテーションを進める。</p> <p>②他者理解と多様性を認め合う共生社会の実現に向けた取り組みを推進し、地域と協働した教育活動を実施する。</p> <p><学校管理 学校運営></p> <p>①災害時等に備えた緊急時の組織的な危機管理体制の確立と防災教育の充実を図る。</p> <p>②不祥事ゼロをめざし会議や研修会を行う、良質の同僚性を構築することや働き方改革を推進し、質の高い教育の充実を果たす上でも教職員が一定程度ゆとりをもって授業に臨めるよう業務改善を図っていく。</p> <p>○令和5年度 学校評価報告書（実施結果） <HP資料参照></p> <p>○各学部教育目標</p> <p>・HPに掲載。</p>
--	--

	<p>5 学校の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の進路先：(小田原校舎A部門) 就職2名、就労移行支援事業5名、就労継続支援事業B型12名、自立訓練事業3名、生活介護事業8名、職業訓練機関1名、その他1名 (小田原校舎B部門) 生活介護事業3名 (大井分教室) 就職7名、就労移行支援事業1名、就労継続支援事業B型2名 ・今年度の入学生：小田原校舎高等部A部門1年38名(中学部から5名、支援級から33名)、小田原校舎高等部B部門1年5名(中学部から4名、支援級から1名)、大井分教室1年15名 湯河原校舎高等部A部門1年1名(中学部から) 湯河原校舎高等部B部門1年1名(中学部から) 小田原校舎中学部A部門1年5名(小学部から5名) 小田原校舎中学部B部門1年2名(小学部から2名) 小田原校舎小学部A部門1年7名(ほうあんふじ・うみ・なぎさ、幼稚園他) 小田原校舎小学部B部門1年3名(ほうあんうみ、保育園) 湯河原校舎小学部A部門1年1名 <p>6 学校および児童生徒の活動の様子～学校ホームページより～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会での部活動の活躍 ・校外学習 ・地域の小学校との交流 ・湯河原校舎 卒業を祝う会 ・給食だより ・支援連携だより ・産業現場での実習等 <p><意見交換></p> <p>安藤様：保護者間で体育大会は高等部全体で行うイメージがあるが、メリット・デメリットを考え、今後どのように実施していくのが良いのか。</p> <p>杉山副校長：第一回は本校のみであったが、その後、大井分教室も加わり一緒に行っていた。コロナ禍を境に各学部での行事が多くなり、大井分教室は大井高校と合同でのマラソン大会に参加している。</p> <p>安藤様：大井分教室が体育大会に参加していた時には、大井分教室の団結力に圧倒された。</p>
--	---

山崎様：規模が大きいと負担が大きくなり、当園でも一緒にやっていた行事を分かれて行っている。入園式は迎える会にするなど規模を縮小した。職員も別々になると分からなくなる。保護者の協力体制や懇親会もなくなるなど、状況が変わってきている。生活面での自立「自分でできることを増やす」ことが大事である。幼児期でのコミュニケーション力、社会に出た時に今何が必要なのか。

榎原様：コロナの感染対策について意識が薄くなってきているが、学校ではどのような具体的な感染対策を行っているか。

廣瀬校長：インフルエンザと同様の扱いである。マスクは継続して着用している人が多いが、決まりはなく個々の判断に委ねている。対策として手洗い、咳エチケット、換気など、インフルエンザ流行時の対策と同様である。感染者があれば、マチコミメールで流している。現状、間を空けながら罹患者の報告はあるが、学年閉鎖などはない。

山崎様：後遺症の話は聞かない。咳が続く程度で軽症化している印象。

●部会会議

◆切れ目ない支援部会記録

○部会メンバー

出席者

川端慎（コスモス学園理事・総合施設長）、榎原友二（風祭の森 風祭事業部長）、山崎美由樹（ほうあんなぎさ療育コーディネーター）、三輪和子（支援連携部長）

欠席者

牛腸昌利（国際医療福祉大学作業療法学科助教授）、窪田朗子（教頭）

○学校より報告

小田原市立足柄小学校への人的交流による研究の進捗について

・5つの研究内容：授業力の向上、UD, 主体的な学びについて、学校コンサルテーションの向上、インクルーシブの意識を高める、教育委員会との連携、本校での取り組み。

・今年度の活動：支援級児童の交流級での主体的な学習の取り組みへ向けて、教材教具の整理、環境設定などに取り組む。支援級児童のケース会に交流級の担当も入る、UD 通信の両校同時発行、居住地交流の取り組みの報告、発達段階に応じた教材教具の紹介、

	<p>学校間交流などを、本校でも全学部で取り組んでいく。</p> <p>○情報交換・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動を充実させることの大切さ。できるのに親が変わってやってしまったたりして生活面での自立に課題があることもある。余暇支援において、興味のあることを深めていくことによって、社会的に広がっていくこともある。アセスメントも大切。 ・県立高校からの支援学校への巡回相談の依頼が増えている。手帳のある生徒も全日制、定時制高校で学んでいる。令和5年度の幼稚園、小・中・高校への巡回相談は年間100件くらいであった。 <p>特別支援教育と通常の教育は、教育委員会でも部署が違い、別々に取り組んでいることが多く、壁があると感ずることがある。ぜひ現場（学校同士）で交流・連携して行ってほしい。</p> <p>◆防災部会記録</p> <p>○部会メンバー紹介</p> <p>出席者 鈴木正一（学校運営協議会長）、安藤由紀（PTA会長）、杉山恵一郎（副校長）、府川聡（管理部長）</p> <p>欠席者 木村秀昭（富水地区自治会長）、鈴木健一郎（副校長）</p> <p>○部会運営について</p> <p>① 現状(今年度の予定)</p> <p>5/23(木) AM 地震、シェイクアウト・津波・火災避難訓練(湯河原)</p> <p>5/24(金) AM 地震、シェイクアウト・津波・火災避難訓練(本校)</p> <p>6/13(木) 職員防災研修会</p> <p>8月末 不審者対応シミュレーション、講話</p> <p>9/4(水) 児童生徒引き渡し訓練</p> <p>10/7(月) AM 火災訓練</p> <p>② 課題(昨年度の取り組みの中から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は小田原支援学校の避難訓練を木村自治会長が見学された。今年度はより多くの人に見てもらってもよい。 ・防災教育の一環として、防災食で喫食体験をしてもよいかも。 <p>③ 湯河原校舎・大井分教室について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯河原校舎に停電時に使える太陽光を利用した蓄電池が配備さ
--	--

	<p>れた。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2026年度から大井高校がなくなるので、大井分教室としての災害対策が必要。これから1～2年で整備することになる。 <p>④ 地域との連携</p> <p>小田原市、湯河原町の協定書の確認を新年度の担当者間で行う。担当者が変わってしまって、紙だけが残っているという状況のないように、担当者が毎年変わるので、顔と顔を合わせて確認することが大切。</p> <p>●まとめ</p> <p>川端副会長：行事再開については見直しをしていく。実習先や見学はいつでも受け入れることができる。実際に見て感じてもらうことが大切。私たちも学校を見て、共有していく。</p> <p>防災対策では、送迎中に被災した想定で実施している。スクールバス乗車中に被災した際の避難で、施設と学校で協力体制を取るのはいかがでしょうか。</p> <p>鈴木会長：令和6年度学校教育計画、目標に向けた具体的方策と評価の観点等について、学校と私たちも含めて実践を深めていく。中間～最終的な評価に向け、第二回・第三回学校運営協議会では実践に対しての評価や意見が出せるように時間を確保し、年間を通した協議が進められると良い。集められた協議会委員の具体的な話や視点から、気づきのある良い機会となった。</p> <p>本日、話題となったキーワードの整理をし、協議を大切にする時間配分を設定し、協議会を行えるとよい。</p> <p>コロナ禍を経て、人との関わりが分断されているように感じる。ソーシャルディスタンスや他者との距離が遠くなったと感じられる。協働・共生に向けた社会生活を過ごすためには、互いに関わり合える場面設定が大事だと思う。</p> <p>廣瀬校長：ハイブリットを継続しつつ、対面で思ったタイミングでのやりとり、遠慮ない意見をいただく場にしていく。</p>
--	--